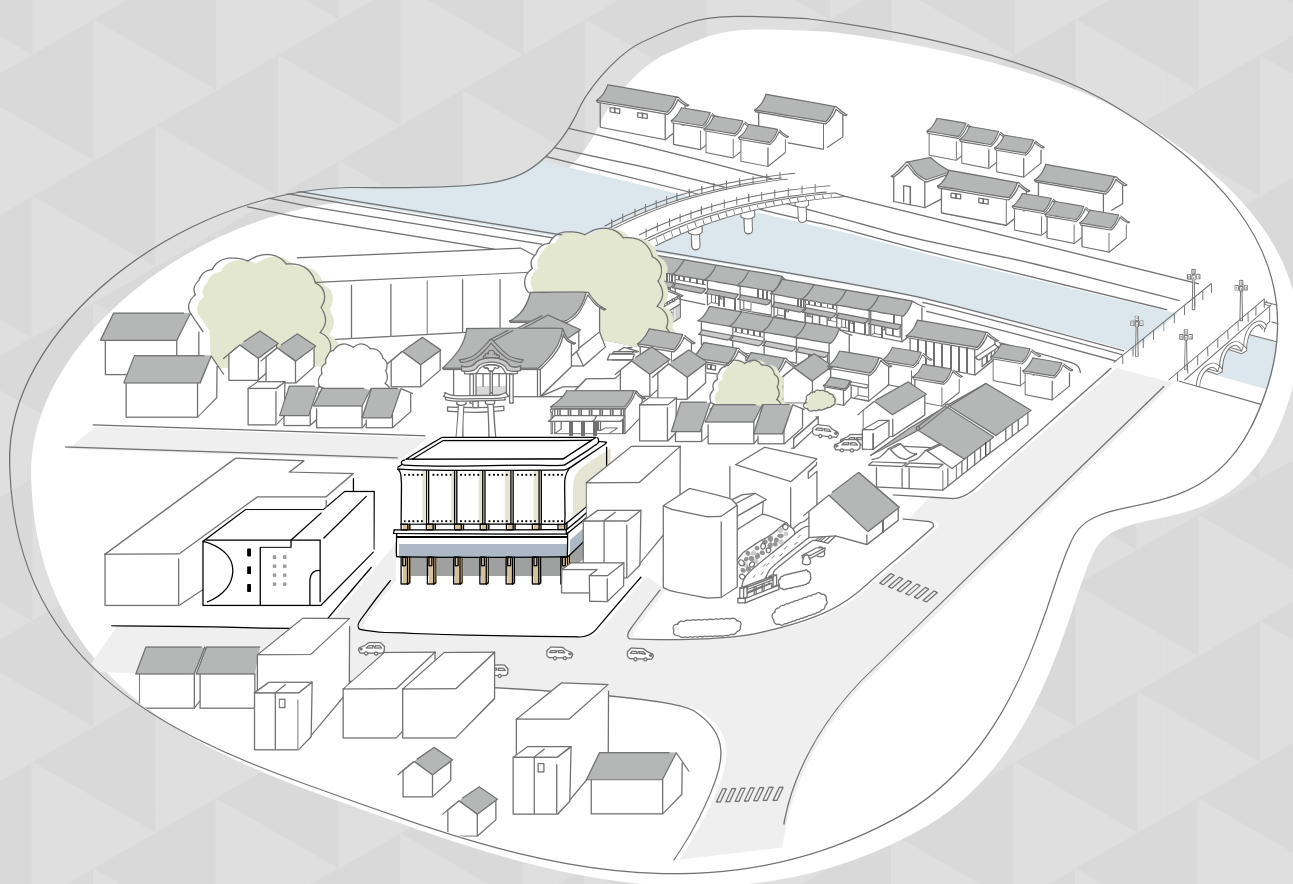


旧菓子文化会館等 再整備基本構想



令和7年12月

金沢市

はじめに

金沢市では、平成11年に泉鏡花の生家跡地に「泉鏡花記念館」を整備し、金沢三文豪の一人である泉鏡花の業績の紹介や、鏡花文学の世界を体験できる場を提供することで、本市の豊かな文化土壌を全国に発信してきました。

また、隣接する旧菓子文化会館においては、平成26年に金沢美術工芸大学により、同大学で約50年にわたり教べんを執った工業デザイナー・柳宗理に関連する研究活動等を行う「柳宗理記念デザイン研究所」が開所され、研究活動や授業への活用による学術研究及びデザイン教育の充実や発展に加え、貴重なデザイン資料の公開による市民への啓発活動の推進が図られてきました。

しかしながら、いずれの建物も老朽化が進行しているほか、泉鏡花記念館においては、展示・収蔵をはじめとした利用環境の向上、旧菓子文化会館においては、柳宗理記念デザイン研究所退去後の有効活用という喫緊の課題に直面しています。

また、両館が存する尾張町界隈は、本市がめざす「木の文化都市」を象徴する地区であり、建築年代の異なる建築物が建ち並ぶまちなみや、歴史に根差した町人文化といった、この地域ならではの魅力を継承・発展させ、さらに風格を高めていくことが求められています。

これらの背景を踏まえ、両館を一体的に再整備することで、このエリアの拠点性をさらに高めるとともに、木の文化都市を象徴し、周辺の文化観光にも誘う空間を創出するため、「旧菓子文化会館等再整備基本構想検討懇話会」による議論を重ね、この度「旧菓子文化会館等再整備基本構想」を策定しました。

この基本構想では、新たな施設を「木の文化都市・金沢を象徴し、泉鏡花を育んだまちへと誘う文化交流拠点」としています。今後、この基本構想に基づき、泉鏡花のみならず、木の文化や尾張町界隈の魅力により人々を惹き寄せ、訪れる人々が歴史文化を体感し、新たな発見や交流を紡ぎ出す、市民・国内外の観光客が心から親しめる施設をめざして整備を進めていきます。

目 次

第 1 章	施設概要と周辺現況および課題	1
1.	泉鏡花記念館と旧菓子文化会館の概要	1
2.	立地特性	10
3.	地域特性・歴史的背景	12
4.	課題の整理	14
第 2 章	整備の方向性	15
1.	基本的な考え方（基本理念及び役割）	15
2.	求められる機能	16
3.	全体像	18
第 3 章	今後について	19
1.	今後の検討課題	19
参考資料	20
1.	旧菓子文化会館等再整備基本構想検討懇話会	20

第1章 施設概要と周辺現況および課題

1. 泉鏡花記念館と旧菓子文化会館の概要

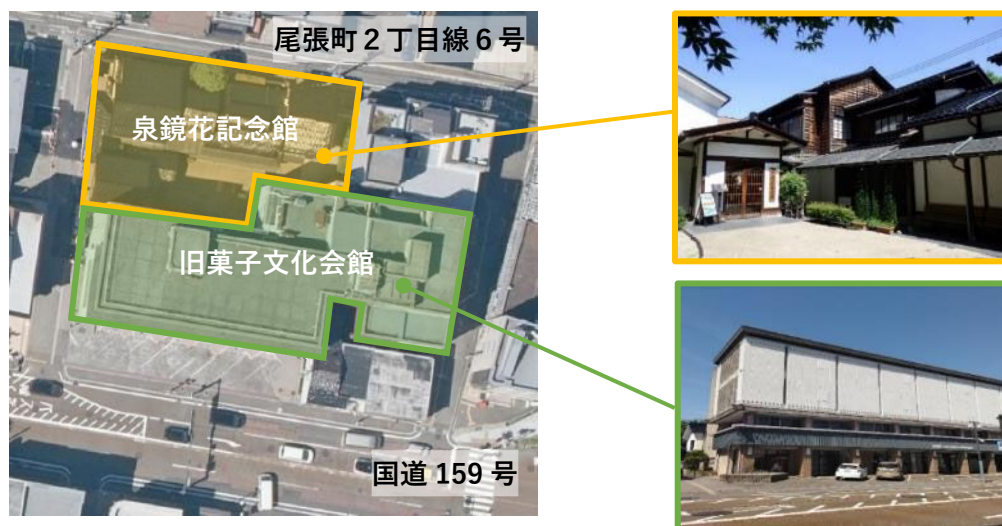
(1) 対象施設

本構想の対象施設は、泉鏡花記念館及び旧菓子文化会館とし、敷地面積の合計は約1,450㎡です。当該地は尾張町と下新町にまたがる位置にあり、主計町茶屋街やひがし茶屋街に近く、多くの観光客が往来する国道159号（通称：百万石通り）と尾張町2丁目線6号（通称：新町・鏡花通り）に面しています。

<周辺地図>



<拡大>



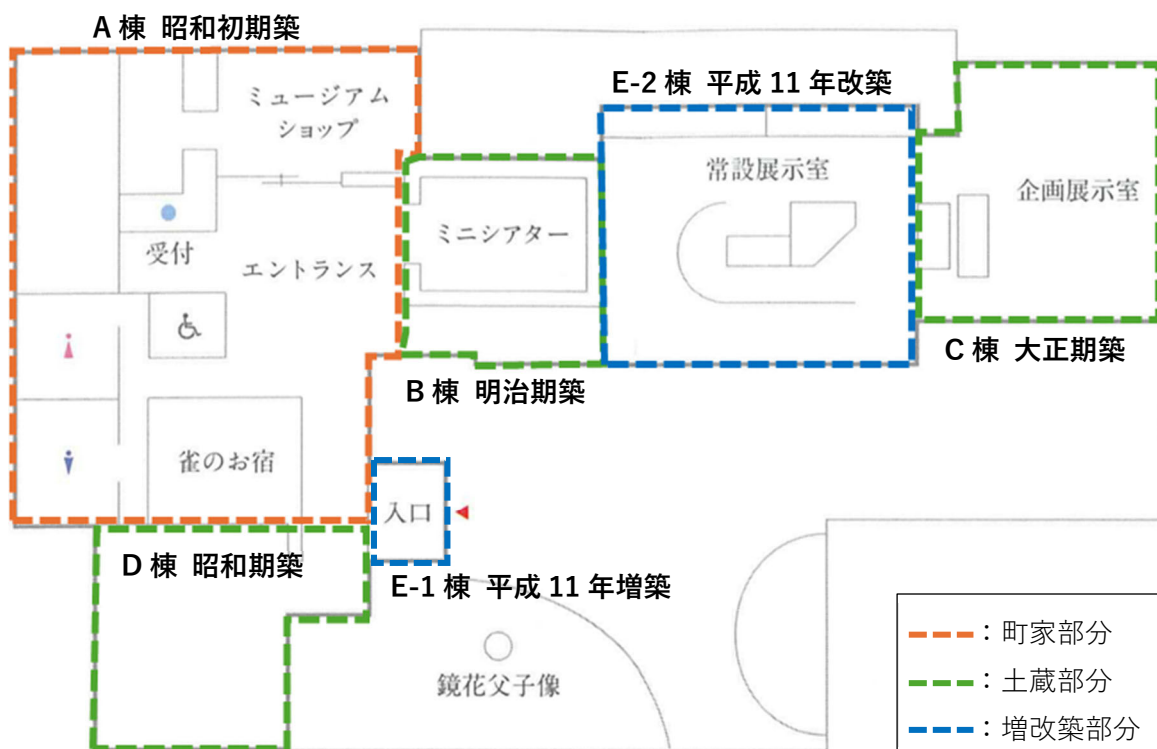
(2) 施設概要

泉鏡花記念館と旧菓子文化会館の概要は、以下のとおりです。

《泉鏡花記念館の概要》

地 番	下新町 2 番 3 号
敷地面積	670.10㎡
構 造	木造 地上 2 階、土蔵 3 棟
延床面積	431.09㎡
建 築 年	町 家：昭和初期（一部増築・改修） 土 蔵：明治期、大正期、昭和期 増改築：平成11年（1999年） ※泉鏡花が幼少期を過ごした生家跡地（生家は明治時代に火災により焼失）に建つ町家等を改修し、平成11年（1999年）に開館

< 泉鏡花記念館施設図 >



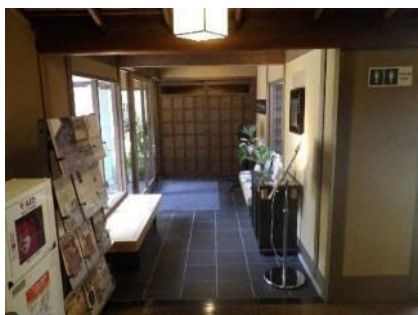
①使用状況

- ・ 町家部分の1階はエントランスや受付、ミュージアムショップ、2階は事務室として使用。
- ・ 土蔵はミニシアター、企画展示室、収蔵庫として使用。
- ・ 増築部分は常設展示室。

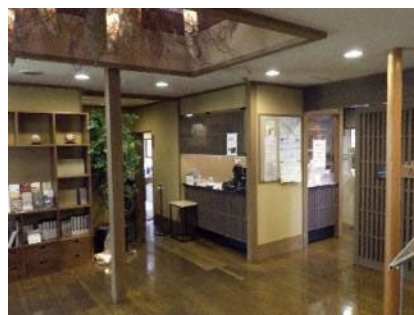
②主な課題

- ・ 1、2階の床に傾きがあり、老朽化が見受けられる。
- ・ 企画展示室の置型展示ケース以外は調湿機能が設けられていない。
- ・ バリアフリースイレにはスロープが設置されている一方、設備の老朽化に加え、建物の構造上の制限等により、全体的なバリアフリー化は未実施。
- ・ 寄贈品が増加しており、イベントスペースであった土蔵を収蔵庫として代用していることから、イベント開催時は他の施設を借りて対応。

< 泉鏡花記念館の現況 >



入口（A棟、E-1棟）



エントランス・受付（A棟）



ミニシアター（B棟）



企画展示室（C棟）

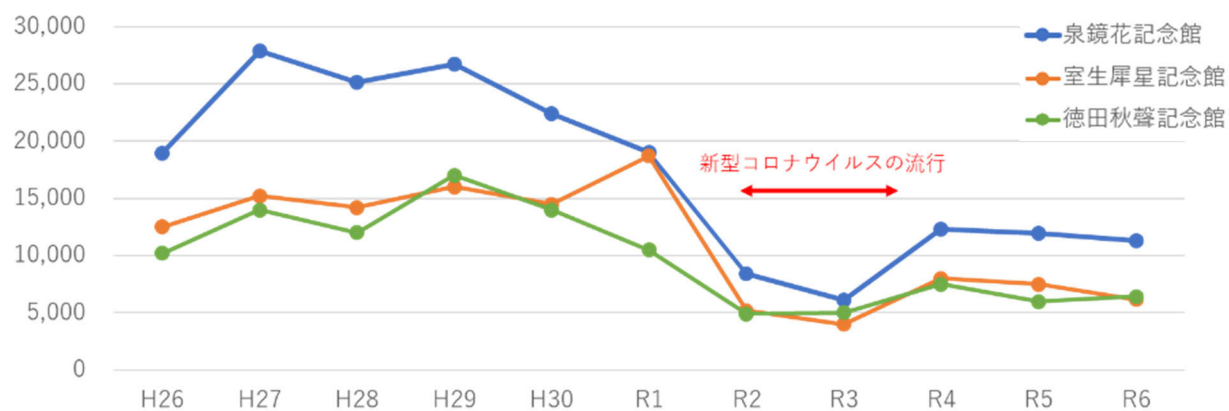


常設展示室（E-2棟）

③金沢三文豪の記念館の利用状況等比較

- ・市内には、金沢三文豪それぞれの記念館を設置。
- ・泉鏡花記念館は、町家等を改修して整備。他の記念館は新築で整備。
- ・泉鏡花記念館は、三文豪記念館の中で来館者が最も多い一方、施設面積は最も小さい。

< 記念館別来館者数の推移 >



出典：庁内調査より

< エリア別の延床面積 >

エリア	泉鏡花（改修）	室生犀星（新築）	徳田秋聲（新築）
展 示	147㎡	201㎡	252㎡
収 蔵	30㎡	58㎡	44㎡
管 理	128㎡	113㎡	73㎡
共 用	75㎡	131㎡	175㎡
合 計	380㎡	503㎡	544㎡

図面より積算

《旧菓子文化会館の概要》

地 番	尾張町 2 丁目 8 番地 1 ほか
敷地面積	781.06㎡
構 造	鉄筋コンクリート造 地上 5 階・地下 1 階
延床面積	3,384.10㎡
建 築 年	昭和41年（1966年） 59年経過 ※平成24年（2012年）金沢市が取得 平成26年（2014年）柳宗理記念デザイン研究所を開設

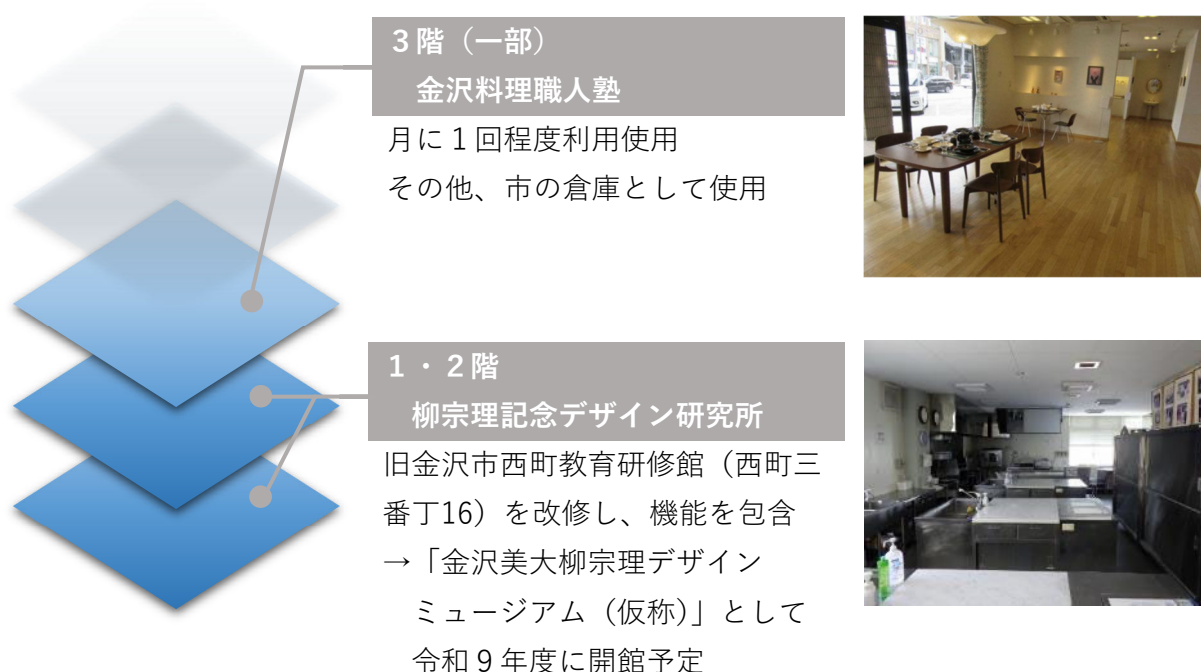
①使用状況

- ・ 1 階と 2 階の一部は柳宗理記念デザイン研究所が使用。
旧金沢市西町教育研修館を改修して整備する「金沢美大柳宗理デザインミュージアム（仮称）」に機能を包含（令和 9 年度開館予定）。
- ・ 3 階の一部は、金沢料理職人塾が月に 1 回程度使用。
- ・ その他は市の倉庫として使用。

②劣化状況等

- ・ 昭和57年以前の旧耐震基準で整備されており、耐震性能が不足。
- ・ 建設から59年が経過しており、施設内外に顕著な劣化がみられる。

<旧菓子文化会館の構成>



(3) 対象地の概況及び法令等

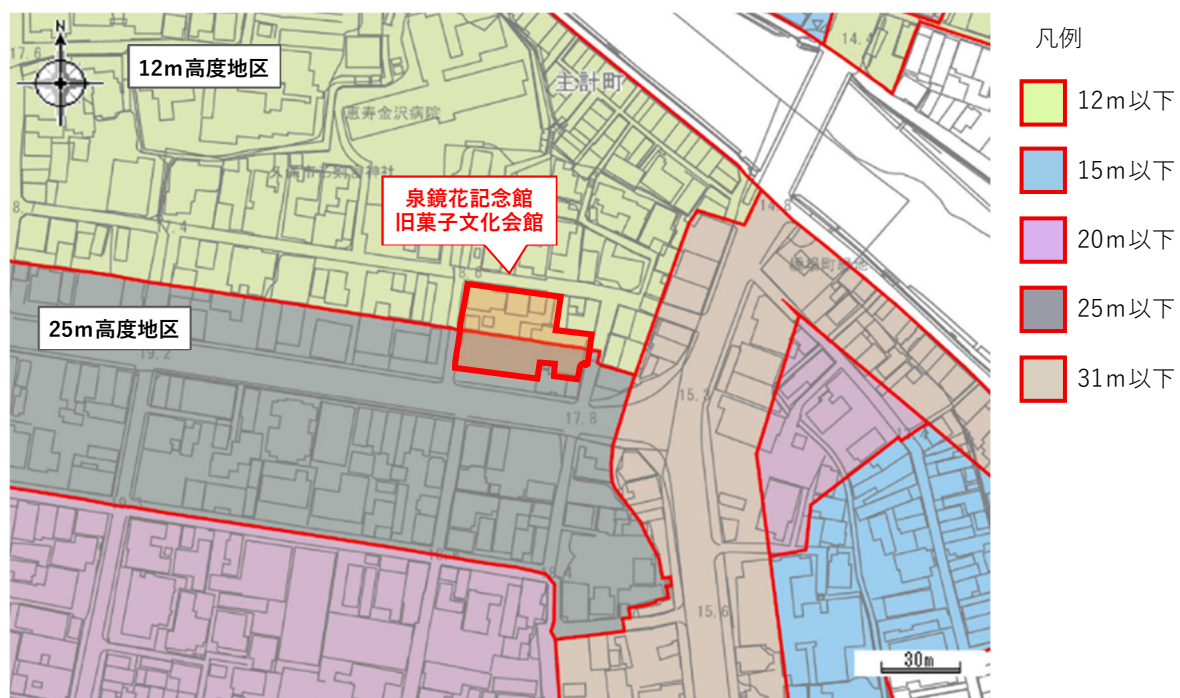
①都市計画関係

- ・ 泉鏡花記念館と旧菓子文化会館の敷地は、ともに商業地域に存する建ぺい率80%、容積率500%の敷地。
- ・ 一方で、泉鏡花記念館（下新町）は12m高度地区、旧菓子文化会館（尾張町2丁目）は25m高度地区と異なる高さ規制に存している。また、泉鏡花記念館は準防火地域、旧菓子文化会館は防火地域と異なる防火地域に存している。

< 都市計画関係規制一覧 >

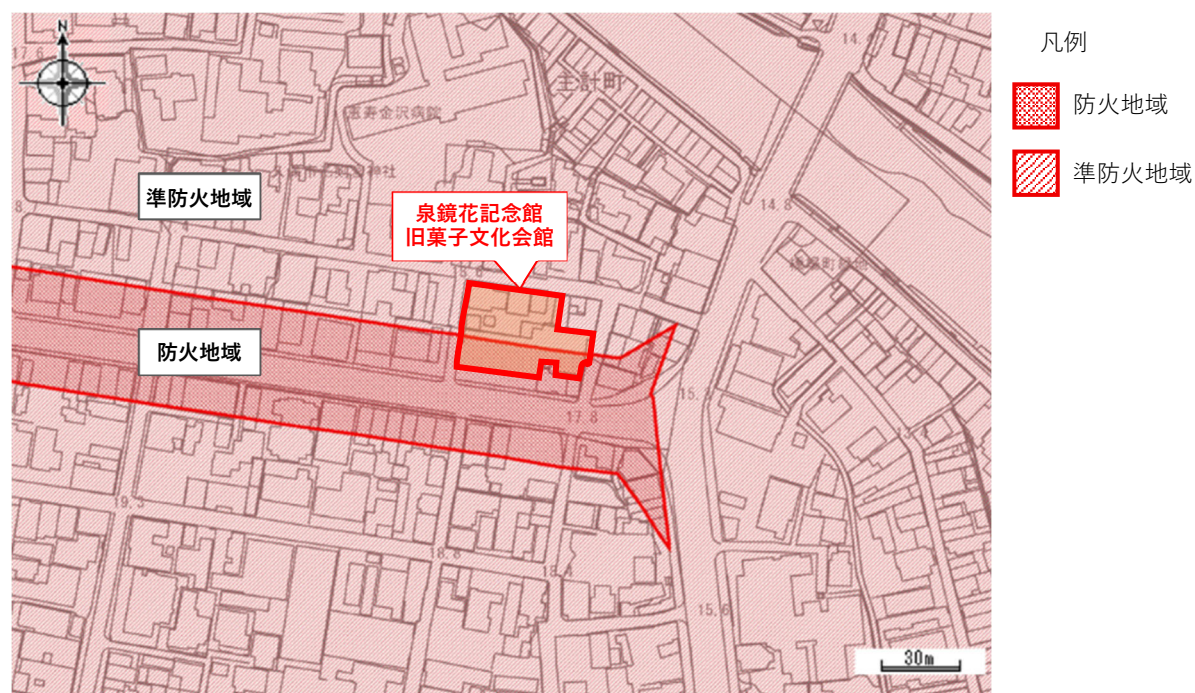
項 目	泉鏡花記念館（下新町）	旧菓子文化会館（尾張町2丁目）
用途地域	商業地域	
建ぺい率／ 容積率	建ぺい率80%／容積率500%	
高さ規制	12m高度地区	25m高度地区
防火地域	準防火地域	防火地域
	3階建て以上、または延床面積が500㎡を超える建築物は耐火建築物または準耐火建築物	3階建て以上、または延床面積が100㎡を超える建築物は耐火建築物
道路斜線制限	勾配1.5	
隣地斜線制限	立上り31m、勾配2.5	
日影規制	規制なし	

< 高さ規制の指定状況 >



出典：金沢まちづくり支援情報システム

< 防火地域の指定状況 >



出典：金沢まちづくり支援情報システム

②景観政策関係

- ・計画対象地の景観政策に関連する主な内容は、以下のとおり。

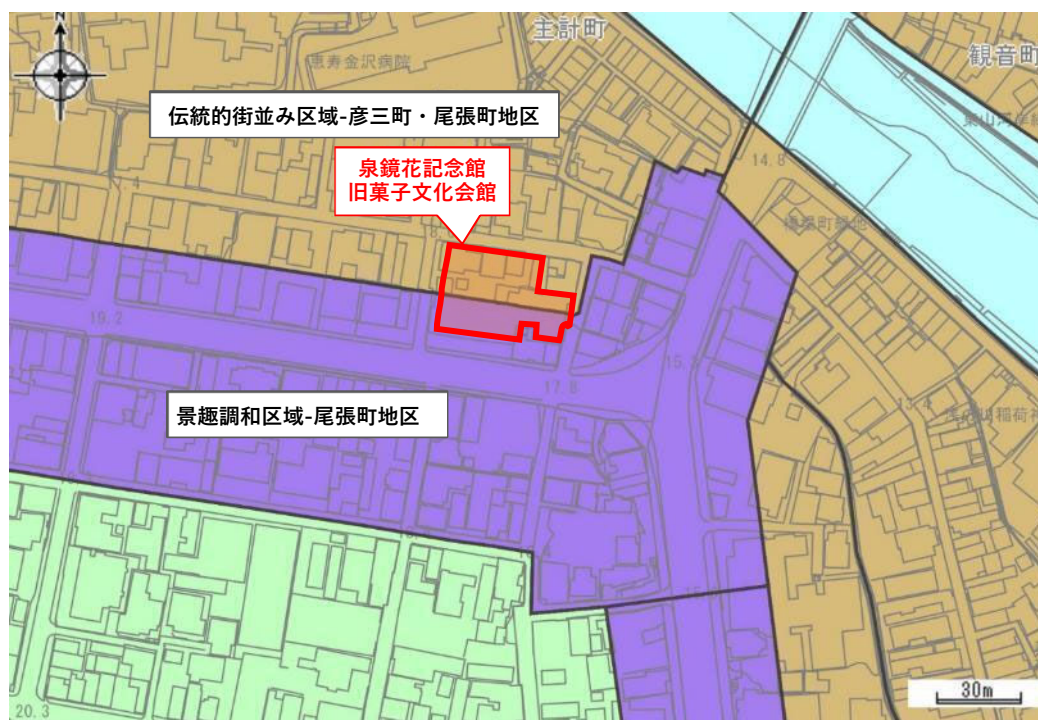
< 景観政策関連（泉鏡花記念館（下新町）） >

指定区域等	政策内容抜粋
伝統環境 保存区域	伝統的街並み区域－彦三町・尾張町地区に該当 周辺の景観と調和した落ち着いた形態意匠とする 等
重要文化的 景観区域	○泉鏡花記念館の敷地： <u>重要文化的景観の「文化的な象徴」に指定</u> ①街区の界限性の保持、都市に刻まれた記憶を適切に保全 ②景観が生み出す一体性の価値と個別建築物の真実性の価値との調整 ③産業施策・文化施策の推進、地区の将来像の構築
金澤町家 保全活用 推進区域	○泉鏡花記念館： <u>昭和初期の建築と推定される母屋や明治・大正 期の土蔵等で構成される金澤町家</u> 基本方針1⇒ <u>金澤町家の維持・修復に努める</u> 基本方針2⇒ <u>金澤町家の居住性・利便性の向上を図る</u> 基本方針3⇒ <u>金澤町家の活用促進を図る</u> 基本方針4⇒ <u>金澤町家に対する市民等の意識醸成を図る</u> 基本方針5⇒ <u>金澤町家の保全・活用に係る人材と団体等を育成・支援する</u> 基本方針6⇒ <u>金澤町家をまちづくりに活かす</u>
こまちなみ 保存区域	○計画地周辺： <u>「こまちなみ 旧新町区域」に指定</u> ・こまちなみ：歴史的な価値を有する武家屋敷、町家、寺院その他の建造物又はこれらの様式を継承した建造物が集積し、歴史的な特色を残すまちなみ ・「こまちなみ 旧新町区域」： <u>軒や格子戸が連なるまちなみを基調に、伝統的建造物の保存、復元を図るとともに、これらと調和した快適で魅力あるまちなみの整備に努める</u>

< 景観政策関連（旧菓子文化会館（尾張町2丁目）） >

指定区域等	政策内容抜粋
伝統環境 調和区域	景趣調和区域－尾張町地区に該当 周辺の景観と調和した落ち着いた形態意匠とする 等

< 景観計画区域の指定状況 >



出典：金沢まちづくり支援情報システム

凡例

伝統環境保存区域	 歴史文化象徴区域
	 伝統的街並み区域
	 川筋景観区域
伝統環境調和区域	 景趣調和区域

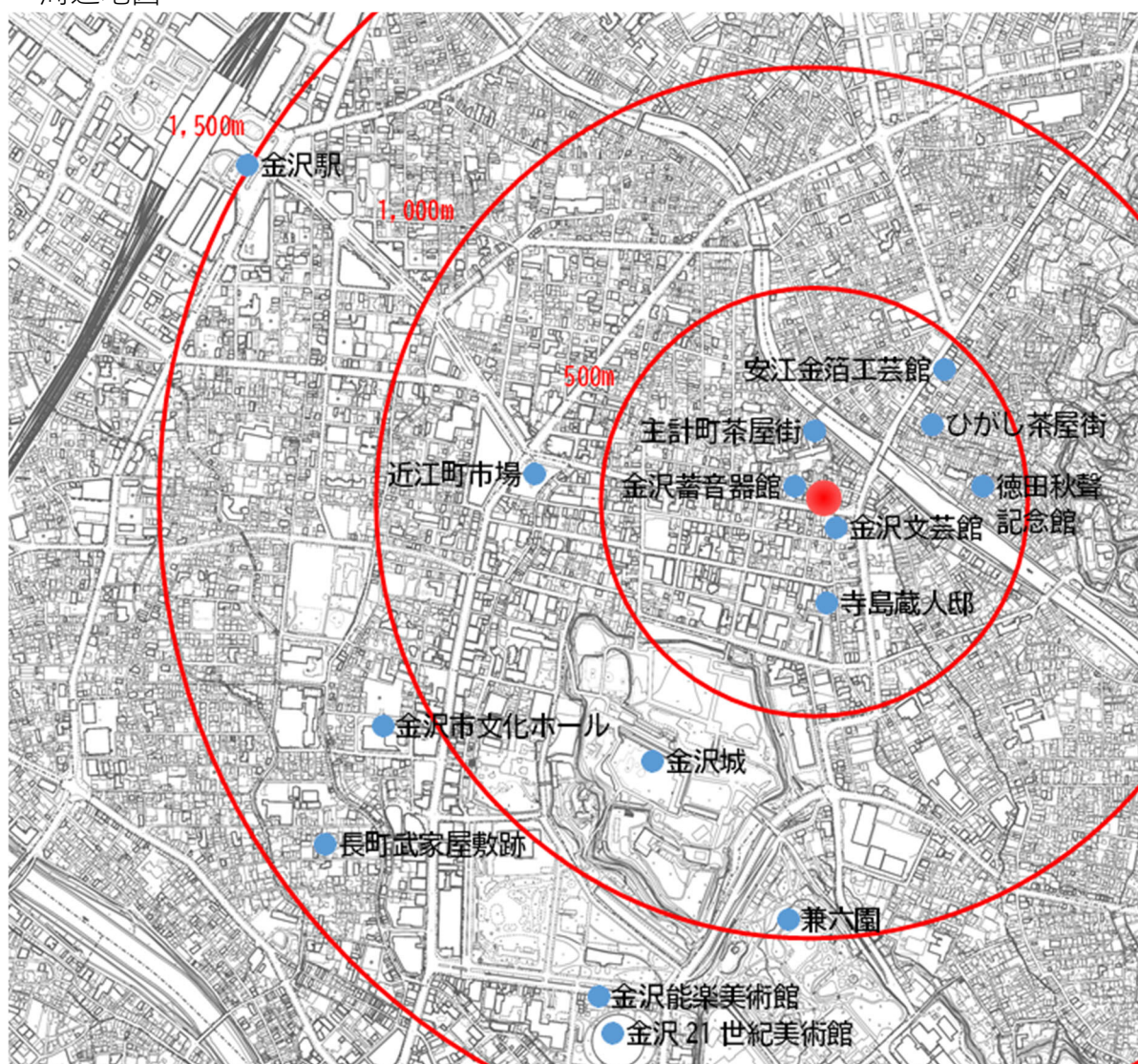
2. 立地特性

対象施設から金沢駅までの距離は1,500mで、対象施設の半径1,500m以内に金沢市の歴史文化資産や文化施設が数多く立地しており、近江町市場からひがし茶屋街へ至る中間点となっています。

また、北鉄バスや西日本JRバスをはじめとした路線バスのほか、城下まち金沢周遊バス、金沢ふらっとバスなどが通っています。加えて、まちのりポートも金沢蓄音器館をはじめ、対象施設周辺に多く点在しており、市民・観光客いずれにとっても交通利便性の高い位置にあります。

そして、木の文化が特に感じられる区域をめざして、木の文化推進重点区域の尾張町モデル地区（国道159号（博労町交差点から橋場交差点までの区間）に面する敷地）に指定されており、木の文化都市の実現に向けた施策を展開する地域にもなっています。

<周辺地図>



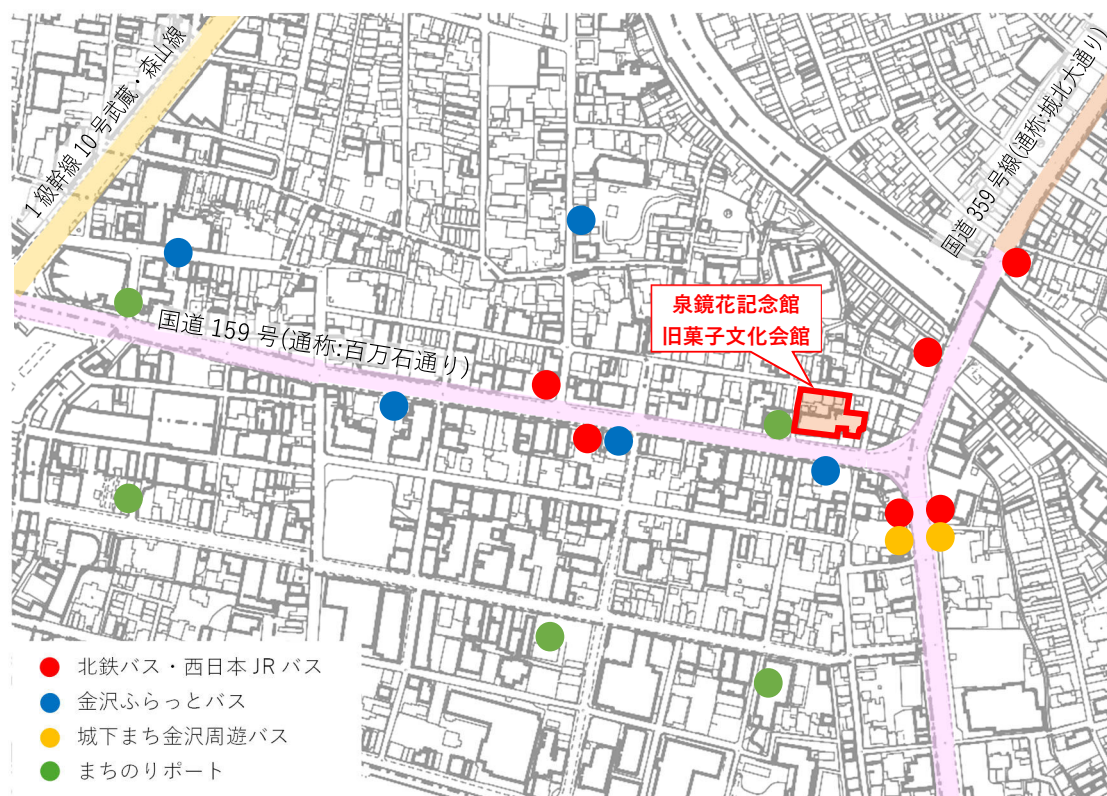
<近隣の主な施設と年間利用者数>

施 設 名	年間利用者数
金沢蓄音器館	24,613人
金沢文芸館	5,703人
寺島蔵人邸	8,078人
徳田秋聲記念館	6,413人
安江金箔工芸館	24,737人
志摩（ひがし茶屋街）	98,992人
兼六園	2,354,570人
金沢21世紀美術館	1,650,056人
（参考）泉鏡花記念館	11,327人
柳宗理記念デザイン研究所※	14,694人

出典：金沢市観光調査結果報告書（令和6年）

※柳宗理記念デザイン研究所は令和5年度（独自集計）

<交通アクセス>



3. 地域特性・歴史的背景

(1) 尾張町

尾張町は前田利家の出身地である尾張荒子で用命を承った町人を召寄せて住ませたことが町名の由来となっています。

菓子屋や時計屋のほか、かつては劇場や大衆芝居小屋など様々な生業が集積しており、国道159号が藩主の参勤交代の通り道であったため、各商店が特に店構えを大事にしてきた通りであり、現在でも建築年代の異なる建物が建ち並んでいます。



界隈性を特徴づける大型町家



福久屋石黒傳六商店



能舞台を設けていた昭和初期のビル

出典：金沢市重要文化的景観保全・整備計画

(2) 下新町

下新町は尾張町が大きくなるにつれて新たに町立てされ、明治4年に上新町と下新町に分町して現在に至ります。

かつての能役者や鼓師の住まいが多く、隣接する主計町や並木町とともに浅野川界隈に栄えた商業・文化活動の舞台となっており、現在も赤色や黒色の外壁や格子戸のある建物が建ち並び、工芸品販売や染色関係などの伝統的な業種が集積しています。



金丸家住宅
(こまちなみ保存建造物)



金箔工芸関連の商店



石崎商店（こまちなみ保存
建造物・界隈景観賞受賞）

出典：金沢市重要文化的景観保全・整備計画

(3) 泉鏡花

泉鏡花は、下新町の生まれで、明治から昭和にかけて活躍した金沢三文豪のひとりです。

鏡花は幼い頃に母を亡くしており、その作品は亡母憧憬を基底に浪漫と幻想の世界を小説や戯曲という形で紡ぎだしてきました。300編あまりの作品を生み出した鏡花は、やがて文豪と称えられ、また天才とも謳われるようになりました。

作品は文学の世界だけでなく、視覚芸術である舞台や映画という手法によっても発展し、現在も人々に愛され続けています。



出典：泉鏡花記念館HP
URL:<https://www.kanazawa-museum.jp/kyoka/index.html>

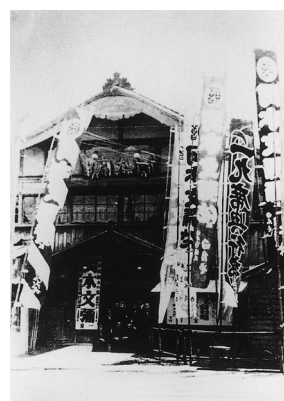
< 泉鏡花の年表 >

	年/年齢	詳細
年表	明治6年（1873年）	11月4日、金沢下新町23番地に泉家長男として生まれる（本名：鏡太郎）
	明治15年（1882年）/9歳	12月、母・鈴が死去（享年28）
	明治23年（1890年）/17歳	尾崎紅葉の作品を読み、小説家を志し上京
	明治25年（1892年）/19歳	京都「日出新聞」に「冠弥左衛門」を連載し文壇デビューを果たす
	明治33年（1900年）/27歳	「高野聖」を「新小説」に発表
	昭和12年（1937年）/64歳	帝国芸術院会員となる
	昭和14年（1939年）	「縷紅新草」を「中央公論」に発表 9月7日、肺腫瘍で死去（65歳）
主な作品	義血俠血、高野聖、婦系図、歌行燈、日本橋、天守物語	

出典：泉鏡花記念館HPより作成

(4) 寄席

明治27年に義太夫語りの竹本一九により下新町に「寄席・一九席」が開場されました。その後、大正8年に尾張町に移転され、地方の寄席ながら全国的に有名になりましたが、昭和9年に廃業となりました。



出典：20世紀の照像
「能登印刷出版部刊」

4. 課題の整理

前述した泉鏡花記念館と旧菓子文化会館の施設状況や周辺環境を踏まえ、整理した課題は以下のとおりです。

< 課題の整理 >

視点	現況	課題
木の文化都市・金沢	<ul style="list-style-type: none">・ 建築年代の異なる建物が多く現存・ 木の文化推進重点区域に指定・ 高さ規制が異なる地区にまたがる敷地	<ul style="list-style-type: none">・ 木の文化都市・金沢を象徴する建築物の整備・ 歴史的なまちなみや文化的景観との整合
泉鏡花記念館のリニューアル	<ul style="list-style-type: none">・ 施設の老朽化・ バリアフリー対応が不十分・ イベントスペースが不足・ 収蔵機能が不十分	<ul style="list-style-type: none">・ 付加価値の高いコンテンツの充実・ 利用環境の向上・ 収蔵品の適切な保存
尾張町界隈の拠点性	<ul style="list-style-type: none">・ 近江町市場とひがし茶屋街の中間点・ 周囲に歴史文化資産や文化施設が集積・ 現代に受け継がれるまちの歴史文化	<ul style="list-style-type: none">・ 近隣の地域への回遊性の向上・ 立地特性を背景をとした新たな機能の創出

第2章 整備の方向性

1. 基本的な考え方（基本理念及び役割）

再整備における基本的な考え方である、施設の基本理念及び役割は以下のとおりです。

【基本理念】

木の文化都市・金沢を象徴し、 泉鏡花を育んだまちへと誘う文化交流拠点

木の文化都市・金沢を象徴する建築物を整備するとともに、
泉鏡花の世界や鏡花文学を育んだ町人文化に親しみ、
周辺の文化観光へと誘うことで、文化を通じた交流を推進します。

《役割》

木の文化都市・金沢を象徴する

各年代の建築物が多く立地する尾張町界隈のまちなみの魅力を高める、
木の文化都市・金沢を象徴する建築物を整備します。

泉鏡花の世界を伝える

泉鏡花の文芸作品を演劇等の新たな手法により体験できるようにするなど、
泉鏡花記念館の機能強化を図ります。

文化観光を促進する

歴史文化やまちなみを体感できる地域に開かれた交流拠点として、
回遊性の向上を図ることで周辺の文化観光へと誘います。

2. 求められる機能

基本的な考え方を踏まえ、新たな施設に求められる機能を以下の4つに設定し、空間を整備するとともに、各種活動を展開します。

《求められる機能》

● 体験



泉鏡花にちなんだ朗読会や演劇のほか、
泉鏡花を育んだ町人文化に触れる体験を通じて理解を深めます。

ソフト (活動)

泉鏡花文芸作品の朗読会・演劇
泉鏡花に関する映像作品の上映
寄席、演劇などの文化体験

ハード (空間)

小劇場
実演・ワークショップスペース

● 交流



地元住民や来街者、若い世代などの交流を生み出し、賑わいを創出します。

ソフト (活動)

泉鏡花講座
泉鏡花文学賞関連イベント
地域連携イベント
学生等作品展示

ハード (空間)

イベントスペース
木の魅力を感じられる多目的室や休憩スペース
地元住民を含めた市民が気軽に訪れ、滞留できる空間

● 発信

木の文化の魅力を発信します。

泉鏡花の文芸作品や業績、周辺の歴史文化を発信し、回遊性を高めます。



ソフト (活動)	泉鏡花作品、生涯の紹介
	周辺の歴史文化（町人文化）の魅力発信
	大型周辺地図、模型展示
	若い世代や外国人に向けた情報発信

ハード (空間)	常設展示室、企画展示室
	眺望スペース
	木の文化に資する建築物

● 収蔵

収蔵品を適切に保存します。



ソフト (活動)	泉鏡花記念館収蔵品の適切な管理及び公開
	隣接する金沢蓄音器館等の収蔵品の適切な管理

ハード (空間)	収蔵庫
	収蔵品の性質に応じた見せる工夫

《各機能の関連》

活動が展開される空間やその活動に
繋がりを持たせることで、
来館者の新たな発見や交流を誘発し、
相乗効果を生み出します。



3. 全体像

【基本理念】

【役 割】

木の文化都市・金沢を象徴し、
泉鏡花を育んだまちへと誘う文化交流拠点

木の文化都市・
金沢を象徴する

泉鏡花の世界を
伝える

文化観光を
促進する

【機 能】

体 験

交 流

発 信

収 蔵

【ソフト（活動）例】

- ・ 泉鏡花文芸作品の朗読会・演劇
- ・ 泉鏡花に関する映像作品の上映
- ・ 寄席、演劇などの文化体験

- ・ 泉鏡花講座
- ・ 泉鏡花文学賞関連イベント
- ・ 地域連携イベント
- ・ 学生等作品展示

- ・ 泉鏡花作品、生涯の紹介
- ・ 周辺の歴史文化（町人文化）の魅力発信
- ・ 大型周辺地図、模型展示
- ・ 若い世代や外国人に向けた情報発信

- ・ 泉鏡花記念館収蔵品の適切な管理及び公開
- ・ 隣接する金沢蓄音器館等の所蔵品の適切な管理

【ハード（空間）例】

- ・ 小劇場
- ・ 実演・ワークショップスペース

- ・ イベントスペース
- ・ 木の魅力を感じられる多目的室や休憩スペース
- ・ 地元住民を含めた市民が気軽に訪れ、滞留できる空間

- ・ 常設展示室、企画展示室
- ・ 眺望スペース
- ・ 木の文化に資する建築物

- ・ 収蔵庫
- ・ 収蔵品の性質に応じた見せる工夫

第3章 今後について

1. 今後の検討課題

今後の主な検討課題は以下の通りです。

施設整備について

- 木の文化都市・金沢を象徴する建築物として魅力ある意匠・素材を検討
- まちなみとの調和に配慮した、建物のボリューム・配置を検討
- 各機能に必要な面積を算出し、諸室の規模・配置を検討
- 老朽化が進む泉鏡花記念館の利活用の可能性を検討
- 整備期間中の泉鏡花記念館の運営に配慮した整備スケジュールを検討
- 木の文化都市を継承・創出する金沢会議との連携

運営について

- 基本理念や役割を踏まえた、魅力的かつ効率的な施設運営のあり方を検討

参考資料

1. 旧菓子文化会館等再整備基本構想検討懇話会

< 検討懇話会の開催経過 >

日程	会議名等	内容
令和7年 6月2日	第1回 旧菓子文化会館等 再整備基本構想検討懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ・現状と課題の整理 ・施設の基本的な方向性 ・求められる役割、必要な機能
令和7年 8月25日	第2回 旧菓子文化会館等 再整備基本構想検討懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想骨子（案）
令和7年 11月12日	第3回 旧菓子文化会館等 再整備基本構想検討懇話会	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想（案）とりまとめ



< 委員名簿（※役職別、50音順、敬称略） >

役職	氏名	所属（団体・役職）
座 長	宮下 智裕	金沢工業大学建築学部 教授
委 員	外山 郁生	味噌蔵地区町会連合会 会長
〃	西本 耕喜	金沢美術工芸大学デザイン科 准教授
〃	東 利裕	金沢文化振興財団 理事長
〃	深谷 圭美	金沢市観光協会 CMO
〃	細川 心潤愛	未来へつなぐ金沢行動会議 委員
〃	山田 正雄	尾張町商店街振興組合 理事長